2．「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」における コンセプト（めざすべき方向性）

（1）新たなシンボル空間の創出

必要性①
大阪都心部の南北軸強化の視点

世界を惹きつける国際集客ゾーン・ミナミの拠点として心地よい空間が必要である

必要性②
次世代の観光機能強化と現状のギャップの視点

成熟時代の次世代おもてなしの観光拠点が必要である

必要性③
エリア周辺のまちの変化や人の流れの視点

まちの推移、人の流れに対応する空間再編が必要である

必要性④
これまでの取組みをさらに加速させる安全安心の視点

大阪のおもてなし玄関口にふさわしい安全で安心な環境づくりが必要である

空間のあり方

拠点

上質な居心地の良い空間

人のまちミナミの中心として、待ち合わせや休憩のできる上質な居心地の良い空間を創造する

回遊

着地型観光案内所

ミナミ・大阪・関西を回遊する拠点として、地域と連携し情報を届ける

「なんば駅前広場」が大阪の新たなシンボルになる

人中心の空間に再編し、世界的繁華街ミナミの新たなシンボル空間を生み出す

社会実験の結果

①最も求められているのは**「憩いの空間」**であること。

②それを実現するには**「上質な設え」**が整備されることが前提条件。

③ひろばで行われるイベントや店舗、その他のコンテンツはその**「居心地を更に向上させる」**仕掛けである。

④観光案内所を仕掛けに、広場から人々をまちへ回遊させる好循環をうみだす。

憩いの空間が生まれる ← 上質な設え

居心地を更に向上させる ← イベント、飲食店など

なんばを回遊させる ← 観光案内所、地域イベントＰＲ

まちへの滞留時間を長くする

（2017[H29].3策定　なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画より）

２．「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」における コンセプト（めざすべき方向性）

（２）世界をひきつける観光拠点づくり

大阪のおもてなし玄関口　～世界をひきつける観光拠点づくり～

①人中心の空間に再編し、世界的繁華街ミナミの新たなシンボル空間を生み出す。
②ミナミ・大阪・関西を回遊する拠点として、地域と連携し情報を届ける。
③人のまちミナミの中心として、居心地よく安心感のある空間を創造する。

中期的イメージ（2020年～2030年）

・なんば駅前空間を一つの拠点として、御堂筋をはじめ魅力ある駅周辺エリアの歩行者回遊性が向上し、大阪やミナミの世界的知名度を確立する。
・当初５年間は大阪の観光ＤＭＯと連携し、ミナミ～大阪のエリアについての着地型観光情報の発信機能を確立、次の５年には関西エリアに拡大する。

長期的イメージ（2030年～2040年頃）

・駅周辺からさらにミナミエリア全体へ、人中心の空間再編が面的に広がるとともに、人口の本格的な減少時代を迎え、単に観光受入だけでなく、様々な文化的試みや人材がミナミや大阪に集まり、オリジナルのコンテンツが生み出される。
・なんば駅前広場は世界的な人材・文化交流エリアのシンボルとして存在する。

（2017[H29].3策定　なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画より）